



できるようになったことを伝える

3月12日（水）に1年生が昔の遊びの発表会を行いました。これは、1月27日（月）に地域の方に教えていただいた遊びの発表会です。昔の遊びを地域の方に教えていただく活動は、コロナの影響でなくなってしまったところもありますが、いろいろな学校で行われています。しかし、教えてもらったことを地域の方に発表するところまで活動を進めるところは少ないと思います。1年生が、昔の遊びを楽しみ、うまくなったところをぜひ地域の方に見せたいという思いが強かったので、この活動につながりました。遊びを教えた地域の方も、「あの子もうまくなっているかな」と気に掛けていただいていたので、ちょうど両者の思いが重なったということになります。

2年生の生活科「町探検」の際にもお伝えしましたが、学校は、地域に協力してもらうだけでは十分ではないと考えています。力を貸していただいた分を地域に還元する必要があります。長い目で見れば、ふるさと潮見を愛する子どもたちを育てることがそれにつながります。短期的に見れば、今回のように自身の成長ぶりを披露することも地域還元につながるはずです。

「子どもたちはとても上手になっていました。教え甲斐がありました。こちらが元気をもらえました。」というのは地域の方の言葉。子どもたちの成長によって、地域の方々が笑顔になるのであれば、地域に支えられている学校の本望と言えるでしょう。今後も、学校における地域還元について考えていきたいと思えます。今回ご協力いただいた地域の皆様、ありがとうございました。

1年生は、こういった発表会や6年生を送る会などで、司会をしたり説明をしたりすることが上達したことも、あわせてお伝えしておきます。



ドッジボールフェスティバル

体育委員会主催で3月13・18日にドッジボールフェスティバルを行いました。体育委員が希望者を募り、そこからチームを編制し、ルールを決めて実行に移しました。予想以上に希望者が多かったため、上学年、下学年それぞれに分けて2日間行いました。普段学級でしているドッジボールとは違うので、新鮮な気持ちで試合をしていました。審判がいるので、試合がスムーズに進んだのも特長です。子どもたちのアイデア一つで、楽しい活動ができるのはとても良いことです。ドッジボールに勝ってこれだけ喜ぶのであれば、大成功です。

